

各位

上場会社名 エヌアイシ・オートテック株式会社
 代表者 代表取締役社長 西川浩司
 (コード番号 5742)
 問合せ先責任者 管理部 管理グループ長 藤井透
 (TEL 076-425-0738)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年4月30日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,000	33	33	19	348.69
今回発表予想(B)	1,342	△102	△94	△50	△933.05
増減額(B-A)	△658	△135	△127	△69	
増減率(%)	△32.9	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	3,413	235	240	140	2,579.25

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	4,280	85	85	48	880.91
今回発表予想(B)	3,137	0	8	22	403.75
増減額(B-A)	△1,143	△85	△77	△26	
増減率(%)	△26.7	△100.0	△90.6	△54.2	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	5,735	253	265	164	3,017.02

修正の理由

昨年の秋からの世界同時不況の影響により、急激に悪化した国内景気の先行きは、一部の企業の生産活動は復調傾向にあるものの、依然として厳しい雇用環境等、本格的な回復には至っておりません。当社の平成22年3月期第2四半期累計期間業績は、企業の設備投資抑制が長期化している影響を受け、FA装置やアルミニウム製構造部材(アルファフレームシステム)の販売が低迷いたしました。また、工業用砥石や油脂類等の消耗品の受注は、本年6月以降、若干上向き傾向にはなったものの、例年とは異なり今夏は、多くの企業が夏季休業を実施し、加えて助成金制度を利用した雇用調整休業等を行ったことによる大幅な減産も一因となり、期初に見込んだ売上高を確保できる状況までは至りませんでした。このような状況の中、当社の平成22年3月期第2四半期累計期間業績は、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに平成21年4月30日に発表しました業績予想を下回る結果となりました。

当社といたしましては、従来から行ってきた製造原価の低減を更に徹底するとともに、他社には真似できない当社のコア事業やコア技術の高付加価値化を図り、次世代の技術革新に基づく景況回復期には安定的な収益を確保できる事業基盤の確立を目指しております。そのため、一時的な業績悪化の状況下でも、年間5千万円にも及ぶ研究開発費を投下する等、継続的かつ戦略的な研究開発及び人的投資を行い、中長期も見据えた事業展開を図っております。

その一環として、人的資源の有効活用と業務効率化を目的に、組織体制の再構築を行いました。具体的には各事業部門間のシナジー効果を高めるため、富山地区の営業マンを一箇所に集約し、付帯する他の業務についても集約及び統合を行いました。また、一部の技術者を営業部門へ配置転換し、お客さまからの多様な要望に対して迅速かつ質の高い対応や提案を可能にする等、全社的な組織の合理化及び筋肉質化を図っております。

なお、この厳しい財政状態の中でも、当社の企業方針であります「無借金経営」を維持しながら、最新のIT技術を融合させて自社開発した世界初の自動設計サポートシステム(このサポートシステムを、当社の主力製品「アルファフレームシステム」の受発注・設計・組立3D-CADソフトを活用したお客様サポートシステム『カクチャTM』と言う。)のアップグレードにより顧客満足度を高めるため、継続的に研究開発投資を行っております。

その成果として当第2四半期には、アルファフレームユーザーによる組立作業工数が、40%以上も削減される組立作業支援システムも開発いたしました。現在は商品化へ向けて最終調整段階に入っておりますが、平成22年3月期第4四半期から市場投入し、システムでの付加価値「単なる材料ではなく、設計から組立完成までのトータルで最高のQ(品質)C(コスト)D(納期)を実現」を提案します。また、このシステムの導入により、アルファフレームで構造物を製作するために必要なスキルが大幅に下がるため、従来使用されていなかった顧客層への販売も期待できます。平成22年3月期第4四半期では来期以降の新たなマーケット創造への基盤づくりを行います。

なお、本年10月以降も産業界全般では、設備投資の抑制・延期が継続されると予想しておりますが、以前は好調であった海外向けフラットパネルディスプレイ製造装置用カスタムクリーンブースや、光ディスク製造関連企業からのマシンカバー等の商談が再開してきており、来期以降にも繋がる案件として受注確保に努めております。

以上のように組織改革等による徹底した無駄の排除と効率化、アルファフレームシステム販売におけるサービスの充実、延期となっていた諸案件の再開等により、第3四半期以降の売上高、経常利益等は回復傾向になると予想しておりますが、期初の予想額を達成するのは困難な状況であるため、通期の売上高及び経常利益等の業績予想を修正いたします。

※ 本業績予想は発表日現在における事業環境及び入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上